

流行靴とその裏側



大谷 知子 靴ジャーナリスト

1978年より『フットウェア・プレス』の編集・取材記者を15年間勤める。1996年、宙出版より『子供靴はこんなに怖い』を出版。日本では軽視されている子供靴の重要性を紹介し、マスコミが子供靴を取り上げる契機となる。

1997年、靴専門誌『シューフィル(“靴愛好家”の意)』の創刊に参加。靴好きの消費者、業界人の注目を集める。

現在、フリーの靴ジャーナリストとして、自身のウェブサイト「Obring (<http://obring.jp>)」の他、執筆活動・講演活動等を行っている。

<著書>『子供靴はこんなに怖い』(宙出版)、『百靴事典』(シューフィル)

近年の流行靴、つまりはファッション靴を挙げると、まず間違いなくバレエシューズだ。最近、やっとかげりが見えて来たが、5年、いや10年近くに以上なるか、まだバレエなのか?!と思うほど、続いた。

次に“流行ってるよね”と言わしめるのは、スニーカーだ。ニューバランス、ナイキといったブランドがファッション誌を飾り、1970年代のジョギング、90年代のナイキ・エアマックスを中心としたブームと同じような状況になりそうな様相を呈しつつある。9月初めにミラノで2015年春夏に向けて大きな靴見本市が開催されたが、有名から無名までたくさんのブースにスニーカーがディスプレイされ、来春の店頭を様々なスニーカーが飾ることは確実だ。

これらの靴が21世紀初頭を代表する靴になるのかどうか、それは分からない。歴史は、今生きている人間ではなく、後世の人が決めるものだ。

だがもし歴史に刻まれたとしたら、その理由として「2008年のリーマンショックに代表されるように経済は混迷し、貧富の差が開く中、人々は安定と実用性を求め、履き心地の良い靴に向かった…」などと記述されることだろう。

しかし履き心地という観点に照らすと、バレエシューズやスニーカーは、本当に履き易いのだろうか…。

●21世紀初頭のファッションを飾るのはバレエシューズ…



●次の流行靴最右翼はスニーカー



●しかし本当に履き易いのか…

第28回 日本靴医学会学術集会

市民公開講座

会 期

2014年 9月27日(土)

15:00～17:00

会 場

都久志会館ホール

福岡市中央区天神4-8-10 TEL 092-741-3335

医療関係者にとって靴は治療具であるが、靴はそもそもファッションの一部です。ファッションとしての靴を熟知する二人のオーソリティが、ファッションシューズの「ホント・ウソ(史実・現状&誤解)」を明らかにします。

ファッションシューズの「ホント・ウソ」

市田 京子 先生

元 日本はきもの博物館学芸課長

講 師

大谷 知子 先生

靴ジャーナリスト

後 援

(公財) 福岡観光コンベンションビューロー
福岡大学整形外科

主 催

第28回 日本靴医学会学術集会事務局

〒814-0193 福岡市早良区田村2-15-1

福岡歯科大学総合医学講座整形外科分野内

TEL: 092-801-0411 FAX: 092-801-0735

E-mail: nkutsu28@college.fdcnet.ac.jp

シュー・ファッションの歴史

市田 京子 元 日本はきもの博物館学芸課長

市田 京子

日本で唯一の履物専門博物館『日本はきもの博物館』（1978年～2013年閉館）で学芸員をつとめる。現在も古代から近代までの日本の履物や下駄の歴史および文化について幅広く研究している。
 <著書>「出土資料にみる古代の下駄」共著：『日本民具学会論集6、衣生活と民具』（雄山閣出版）、「江戸時代の下駄」共著：『江戸文化の考古学』（吉川弘文館）

